



医療安全管理室

発刊 2023年9月 Vol.49

医療安全推進情報 広報「安進くん」

<医療安全管理研修会>

安全文化の醸成!

6月14日-30日の期間、セーフティープラスにて動画による医療安全管理研修を実施しました。視聴率は94.0%でした。

内容1:「令和4年度 インシデント報告集計等」/医療安全管理室長 菅本祐司副院長

- ・医療安全について
 - 目的:医療トラブルの防止、安全な医療サービスの提供
- ・インシデント報告について:積極的にインシデント報告システムに参加しましょう
- ・心理的安全性について:心理的安全性を意識し、それを構築するためにどうすれば良いか考えよう
しましょう

内容2:「病院コンシェルジュ室の活動報告」/コンシェルジュ室(専従) 中野美起子副看護部長

- ・コンシェルジュ業務の紹介:患者サービス・患者満足度の向上に関する企画立案・総合案内の実施
- ・各種入院外来患者支援の連携

<医療安全活動>

【ISBARC 研修会】

【日時】令和5年7月12日(水) 17時45分~18時45分

【場所】沼津市立病院 2階講堂

【研修テーマ】良好なコミュニケーションが患者の安全を守る

—ISBARC(SBAR)を使って報告してみよう!—

【講師】秦まき皮膚科部長

【内容】講義+ISBARC+事例演習+グループワーク

【参加者】研修医6名(3名欠席)・看護師21名(1名欠席)・コ・メディカル9名・事務2名 計38名

【研修目的】ISBARCを活用しタイムリーに相手が理解出来る情報伝達がおこなえる

- 【研修目標】
1. 講義を通してISBARCコミュニケーションツールについて学ぶ
 2. 演習をとおして、ISBARCによる報告ができる

【アンケート結果】

1. ISBARCの報告ツールは理解できましたか?

- ① よく理解できた 28 ② まあまあ理解できた 10

2. 今後の仕事に役立つと思いますか?

- ① とても役立つ 33 ② まあまあ役立つ 5



<教えて! あなたの職場の医療安全> =リハビリテーション科=

日頃より、リハビリテーション科の業務に対してご協力ありがとうございます。

リハビリテーションは本質的にリスクの高い分野です。

患者様は運動器疾患、脳血管疾患、廃用症候群等を有しており、全身的な合併症のある方も少なく、また知的低下や高次脳機能障害を呈する場合には本人によるリスク管理が困難な事も多いです。

今回は転倒予防について御報告します。

転倒とは

歩行や日常生活などの動作時に、意図せずにつまずいたり、滑ったりして、床・地面もしくはそれより低い位置に手やおしり等の体の一部がついた場合と定義されています。

転倒予防の介入例

① 心身機能の改善

筋力や関節の運動機能を高める事によって転倒予防が期待できます。

② 環境整備

照明を明るくする。

転倒につながる物を排除する。

本人や家族に関わり方を指導する等の転倒予防に対する教育を行うことも転倒リスク軽減に有効です。



最後に転倒予防をするのであれば、「何もしなければ良いのでは?」とのご意見もあります。

もちろん、動く事がなければ転倒する事はありませんが、日中から臥床傾向となり、筋力や認知機能低下を引き起こす恐れがあります。

毎日、自立した生活を続けること、楽しみを持って生きることこそが、患者様、御家族のよりよい生活につながる事と思います。